



# 東京 ものづくり・匠の技の祭典 2019

東京都左官組合連合会  
会長 石川 隆司

東京都は、日本各地と連携して双方の強みを活かした産業振興施策を「ALL JAPAN & TOKYO プロジェクト」として実施しておりますが、その一環として、日本のものづくり産業の持続的発展を目指し、東京を起点に日本各地と連携し、ものづくりとそれを支える匠の技の魅力を発信するため、全国から優れた技能を一堂に集めるイベント「ものづくり・匠の技の祭典」を毎年開催しています。

4年目となる今年、東左連は以下のような内容により参加協力しました。

- 日時 令和元年7月25日(木)・26日(金)・27日(土)  
10:00 ~ 18:00(最終日は17:00で終了)
- 会場 五反田TOC展示場13Fグランドホール  
(例年開催していました東京国際フォーラムはオリンピック競技会場となるため今年と来年は使用不可)
- 内容
  - ステージ実演 大壁の漆喰塗り
  - ブース実演 漆喰塗り、直径1mの光る泥団子づくり
  - ブース展示 大津壁構造体、擬板、調湿機能実験装置
  - ブース体験 光る泥団子づくり体験  
(体験者数90名、うち外国人16名)  
塗り壁体験(体験者数64名、うち外国人1名)
  - 茶室の展示 塗り壁の説明



巨大泥団子づくり



巨大泥団子

## しっくい(Shikkui)とは (Japanese lime plaster)

日本古来から続く塗り壁 (Shikkui plastering)。消石灰 (しょうせっかい calcium hydroxide)、糊 (のり paste)、苧 (すざ fibers for plastering) で構成され、調湿、抗菌、耐火、有機化合物の吸着、吸音作用に優れた材料として再注目されている。

### しっくいの説明文

## 大津磨き壁の構造体

左官の最高級仕上げ「大津磨き壁」  
(鏡のように光る壁塗りの工法)

- 木骨下地(竹、シュロ縄) → 荒壁塗り(土、わら)
- 裏伏せ(漆喰、シュロ縄) → ちり塗り(土、わら、砂)
- 西塗り(土、わら、砂) → 中塗り(土、わら、砂)
- 灰土、引き土(土、石灰、すざ、紅がら) = 大津仕上げ

### The structure of "Otsu polish wall"

Bamboo lath foundation (bamboo, hemp-palm rope) →  
 Rough plastering wall (clay, straw fiber) → Nuki buse  
 (Japanese lime plaster, hemp-palm fiber) → Chiri-  
 plastering (clay, straw fiber, soil) → Bottom plastering  
 (clay, straw fiber, soil) → Middle coat (clay, straw fiber,  
 soil) → Haitsuchi, Hiki-clay (clay, lime, fibers for  
 plastering, red iron oxide)  
 = Otsu wall finish  
 Producer: Mitsuru Konuma, JAPAN PLASTERERS' ASSOCIATION

大津磨き壁の説明文

## ひかる だんご 光る泥団子とは

左官の最高級仕上げ「大津磨き工法」(鏡のように光る壁塗りの工法)を、誰にでも出来るように団子状にしたもので、各地のイベントなどでも大人気です。

- 団子の芯になる材料 : 粘土質の土と藁切
- 上塗りの材料 : 光沢の出る色付き粘土  
顔料、石灰、糊

### What is the shining mudball?

Everyone can experience the technology of the plaster's finest finish "Otsu polish" through making mud dumplings. This experience is very popular at all places of Japan.

The core material : The argillaceous soil and the straw fibers for plastering  
 The surface material : The colored clay that can give out the polish, the pigment, the limestone and the paste

光る泥団子の説明文



調湿実験装置

今年も、外国人に日本文化を発信するという目的を重視し、外国人向けの表示を掲げ、外国人専用の体験席と体験壁を設け、多くの外国人に体験してもらいました。

また塗り壁体験の指導者には、令和会女性支部の技能者を配置しました。

第1回目より、挟土秀平氏が大壁に題字「手 技 職」を描くパフォーマンス、葛飾北斎の「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」を鏝絵で再現するパフォーマンス、左官とタイルと印章のコラボレーションによるオープニングアクト（磨き壁の上に、タイルで「匠 伝統×革新 技」、印章「匠技祭典」押印）とステージで左官のPRをして参りましたが、今年は日左連が推進する「しっくい普及推進プロジェクト」をPRするため、左官の基本に立ち返って、2×4mの大壁を4人でダイナミックに漆喰で仕上げるという企画をしたところ、K1元世界王者の魔裟斗様が共演していただけることになり、急速中央部分に東京都のシンボルマーク（東京都の「T」を表現しています）を導入し、魔裟斗様に珪藻土（顔料の色合わせと材料提供では四国化成工業様にご協力いただきました。感謝いたします）を塗っていただきました。

舞台裏で事前に練習までした魔裟斗様は、左官の半纏を着て汗だくになって塗り、左官技能の難しさをアピールしていただいた上に、型紙による「左官」の文字入れ、手形、サインまでしていただきました。感謝いたします。

当初の計画ではオリンピック開催までということですが、来年が最終回となりますが、テーマである「伝統と革新」に合致する企画案がありましたら、何なりとご提案ください。

猛暑の中、全国より応援に来てくださいました日左連会員、賛助会員の皆様方に、厚く御礼を申し上げます。



魔裟斗様



大壁塗り



ステージ作品



スタッフ